

フランス映画の鑑賞・分析とクリエイティブなドラマ活動の組み合わせの利点
ーフランス語中級クラスにおけるドラマ活動の実践を通して

治山純子（東京大学）

外国語教育におけるドラマ活動は、学生が自分の伝えたいことを主体的に発信できるというコミュニケーションの側面からも、表現・語彙、文法、発音などを復習したり新たに学んだりできるという外国語運用能力向上の側面からも、グループで協力してストーリー展開を考えて1つの作品を作るという協同学習の側面からも、大きな利点がある。Haruyama (2010) では、特にフランス語初級クラスでのドラマ活動の実践を紹介し、普通の授業で教科書のダイアログのロールプレイを行うことと組み合わせることで、またスクリプト作りの手助けとなるワークシートを用いることで、初級レベルでもクリエイティブなドラマを作成できることを示した。治山 (2016) では、中級クラスでのドラマ活動の様々な実践を紹介し、その意義・利点について、文法事項の定着、主体的な語学学習、場面設定、文化面への気づきとディスカッション、協同学習の環境、高度な論理構成力の観点から論じた。

本発表では、フランス語中級クラスの中でも特に、一年を通じてフランス映画史を概観し、フランス映画の鑑賞や分析を通して、総合的なフランス語力を養うことを目的としたクラスにおけるドラマ活動の実践を紹介する。そして、ドラマ活動が様々なレベルに適用できるものであることのみならず、映画の授業と組み合わせることにより、良い効果が期待できることを示す。様々な映画の名シーンは当然良いモデルである。それらをリスニングし、ロールプレイを行う経験を蓄積することが、クリエイティブなドラマを作り、演じることに、いかにポジティブな効果を与えうるかについて論じる。また、授業では、時代を映す鏡である映画を通して、フランスの文化・社会について、様々な角度から考察し、ディスカッションを行っており、このことが人生の縮図であるドラマ作りにも与える影響について述べる。そして、このような包括的な学びであるドラマ活動の有効性を改めて主張する。

参考文献：

Haruyama, Junko (2010). « Varier les interactions en classe de FLE, optimiser l'apprentissage ? ».

Mémoire FLE - DEF / DUFLE [Français Langue Etrangère – Diplôme d'Enseignement du Français / Diplôme Universitaire de Français Langue Etrangère]. Université du Maine & Institut français du Japon - Tokyo.

治山純子 (2016). 「外国語教育におけるドラマ活動の意義ーフランス語中級クラスでの実践と考察」. 『慶應義塾大学外国語教育研究』第12号, 27-58.